大口町の都市公園

堀尾跡公園

だれもが聞いたことのある
裁断橋のものがたり。
郷土の人々の慈愛と偉業をたたえる
堀尾跡公園は、
水辺と緑を十分に生かした
みんなのリフレッシュ空間です。

ひとと歴史をしのび、新しい文化をはぐくむ「舞台」です。

裁断橋と姥堂

裁断橋・擬宝珠の銘文

てんしやう十八ねん二月
天正十八年二月
じゅうはちねんにがつ

御ちんほりをきん助と
御鎮堀を金助と
ごちんほりをきんすけと

申十八になりたる子を
申十八になりたる子を
いうじゅうはちになりたるこを

た、せてより又ふため
出発させてから もう二度と会えない ために
出発させてから もう二度と会えない ために
しゅっぱつさせてから もうこの世では二度と会えない ために

とも見さるかなしさの
とも見さるかなしさの
と も みさるかなしさの

あまりにいまこのはし
あまりにいまこの橋
あまりにいまこのはし

をかける成は、の
をかける成は、の
をかける のです 母の

身にはらくるいと
身には 涙の 種 と
みには なみだの たね と

もなりそくしんしやう
もなりますが 安らかに 成
もなりますが やすらかに じょう

ふつし給へ
仏してください
ぶつしてください

いつかんせいしゅんと後
逸岩城俊（金助の法名）とのらの世のまた 後 まで この
逸岩城俊（金助の法名）とのらの世のまた 後 まで この

のよの又のちまで此
のよの又のちまで此
のよの又のちまで此

かきつけを見る人は
かきつけを みる ひとは
かきつけを みる ひとは

念仏申給へや卅三
仏様に おのりしてください 我が子さんじゅうさん
仏様におのりしてください 我が子さんじゅうさん

年のくやう也
ねんのくようです
ねんのくやうです

●これは、金助の母が元和8年に行った2度目の裁断橋改架の際に、擬宝珠に刻まれた文章です。「成尋阿闍梨母の集」「野口英世の母の手紙」とならんで日本母の三名文のひとつに数えられています。

裁断橋に設置された擬宝珠の複製

裁断橋ものがたり

天正十八年（1590）二月十八日、堀尾金助は御供所を出発し、小田原征伐に加わりました。金助はこの時十八才で初陣しました。金助の母は祈願をかねて、当時熱田神宮付近にあった裁断橋まで見送りましたが、その願いもむなしく同じ年の六月、金助は戦死してしまいました。金助の死に嘆き悲しんだ母は、金助との別れの場となった裁断橋が古くなっていたことを思い出し、その改修のために私財をなげうつことを決心しました。人助けにもなり、わが子の供養にもなると考えたのです。天正十九年のことでした。母は元和八年（1622）にも二回目の改修工事に取り組みましたが、その完成を見ることなく永眠しました。

その後、幾度も架け替えが行われた末、川の埋め立てにともなって橋は取り壊されました。昭和二十八年には三分の一の大きさで復元されましたが、平成四年にはそれも撤去されました。

そして平成八年、金助の母が二回目に建立した裁断橋が、母子の出生地・大口町に百年以上を経て忠実に再現されたのです。

参考文献「熱田裁断橋今昔資料展」「熱田裁断橋物語」裁断橋にまつわる金助と母の物語は、「紙のかぶと」の題名でも親しまれています。

裁断橋の歴史

永正　六年（1509）「熱田講式」に裁断橋の名が初出
天正十八年（1590）金助出陣、同年戦没
天正十九年（1591）金助の母、裁断橋を架け替え
元和　七年（1621）金助の三十三回忌にあたり、母二度目の架け替えに着手するが、同年御供所にて没
元和　八年（1622）金助の母の養子となった安藤類石衛門、遺志を継いで完成。擬宝珠に母の銘を刻む
寛文　九年（1669）裁断橋架け替え。その後、不明の期間はさんで数度にわたり架け替えが行われる
……
大正十五年（1926）裁断橋が架かっていた矯進川埋め立て、擬宝珠を残して橋は取り壊される
昭和二八年（1953）裁断橋を三分の一の大きさで復元
昭和四八年（1973）擬宝珠、名古屋市文化財に指定される
平成　四年（1992）マンション建設にともない裁断橋を撤去
平成　八年（1996）大口町堀尾跡公園に、金助の母が二度目に架け替えた裁断橋が復元される

公園の概要

公園名／堀尾跡公園（ほりおせきこうえん）
所在地／愛知県丹羽郡大口町堀尾跡一丁目地内
敷地面積／0.75ha
施設の種類
■桜の広場
洋風あずまや一基　カナール1式
みかげ石により桜模様舗装 80㎡
■裁断橋広場
裁断橋（復元）幅 5m×長さ 23m 1橋
堀尾塀（漆喰壁）高さ 2.3m:63m　門（姥堂）1宇
案内板（尾張名所図会）1基　常夜灯4燈　小水車3基
■野外ステージ野点広場
ステージ・観客席 400㎡　トイレ1棟
和風あずまや1期　投句記載台2基　句碑4基